

# 通信文化新報

## 日本郵便

### 牛込支店の本橋課長代理 山中総務主任に「感動賞」

あて名に「サンタさん」とだけ書かれた手紙、子供の夢を壊さないようにと、自宅にそっと届けた東京の日本郵便牛込支店の社員「心に温い灯がともりました」と感謝の新聞投書が掲載された。

投書の要旨は「小学一年生の孫娘が、サンタさんに手紙を送った。悩んだあげくに欲しいプレゼントを決め、母親が知らないうちにポストへ。自分の名前と住所はしっかりと書いたものの、あて名は『サンタさん』だけ。夕方、郵便配達の方が『分からないように隠しておいてあげてください』と目告へ。郵便受けへの返送は、本人が見つけてしまっ

## “小学生のサンタさんへの手紙”そっと母親へ返還

かもとの気遣いがあり、た対応を行った第一集がたく、心に温い灯が配営業課の本橋泰憲課長と、とりました「朝日新聞、12月7日」。

かもとの気遣いがあり、た対応を行った第一集がたく、心に温い灯が配営業課の本橋泰憲課長と、とりました「朝日新聞、12月7日」。



推奨状を手にした本橋課長代理(右)と山中総務主任。右は浦池東京支社営業部長、左は堀米支店長

も知れない。直接、親御さんに手渡したらどうだろうか」と相談、窪田課長が山中総務主任に理由を説明して手渡すようにと指示。

山中総務主任は「お子さんがせっかくだから大切な手紙、本人にと、たいへん喜んで分らないように」とらった。手紙を大切に母親へ。子供の気持ちも思ってもらえて、むしろ、たいへん喜んで、良さを多くの人に知ってもらったことが、祖母の気持ちも分るようになった。

本橋課長代理、「普、アップのために通に返すのは簡単。夢ねいな接遇を心がけたを壊してしまっのかい」と語っている。